

## 三田市民病院との統合に向けた取り組みについて

### 1 当院の現状と課題

#### (1) 将来の医療提供体制の見直しについて

当院の診療圏における人口減少及び高齢化の進展により2035年をピークに急性期患者が減少に転じる見込みであることから、いずれ近隣の医療圏域を含めた急性期医療の集約化が必要となる。

#### (2) 医師の中長期的・継続的確保の懸念について

当院の医師数は、急性期医療を担う基幹病院として十分ではなく、新専門医制度及び医師の働き方改革を踏まえると、今後、必要な医師数の確保はさらに困難になるものと思われる。豊富な症例数及び充実した人員体制等、医師にとって魅力ある病院となるには、一定数の病床規模が必要である。

#### (3) 経営状況の悪化について

① 患者数の伸び悩み、少子化の影響による周産期医療部門（産科・新生児）の収支の悪化、さらに新型コロナウイルスによる患者数減から、収益悪化が著しい。

② 30年前に当地(神戸市北区)に移転した際の病院整備費の残債が37億円あり、経営の負担になっている。

#### (4) 建物設備の老朽化・建て替えについて

現病院は築30年が経過しており、施設設備の老朽化から、今後約10年後の建て替えを見据えて具体的検討を進めていく時期にあるが、資金準備がない上、多額の残債があるため、当院単独で一定規模の急性期病院の建て替えは難しい。

### 2 三田市民病院の実情

隣接する三田市民病院も、当院と同様の課題を抱えており、平成29年に策定した病院改革プランにおいて、「統合・再編も視野に入れた連携のあり方を今後検討する。」との方向性をすでに公表している。

### 3 統合に関する基本合意に至るまでの経緯

#### (1) 当院で設置した「将来のあり方検討委員会」の結論（令和2年12月）

人口減少、少子高齢化の進展、医師の継続的な確保への懸念、築30年を経過した現病院の建て替えなどさまざまな課題について整理し、将来の方向性を院内でとりまとめた結果、当院単独では将来にわたって急性期医療の提供が困難であることから、医療行政を担う神戸市にも働きかけ、三田市民病院との統合を目指すことを院内で決めた。

#### (2) 「有識者検討委員会」の設置及び提言（令和4年3月）

こうした当院の実情を受け、神戸市及び三田市が令和3年6月に、大学教授、医師会、

民間病院協会などの有識者による「北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討検討委員会」を立ち上げ、今年3月に最終報告書がとりまとめられた。

その報告書では、将来的にこの地域の急性期医療を確保するためには、済生会兵庫県病院と三田市民病院の統合が最善の方策であると結論づけられたところである。

(3) 三者による統合に関する基本合意（令和4年6月2日）

上記(2)の有識者検討委員会からの答申を受け、両病院を取り巻く環境の変化を十分に踏まえつつ、北神・三田地域の急性期医療を将来にわたりいかに確保していくかという観点から、済生会・三田市・神戸市の三者で慎重に協議を重ねてきた結果、三田市民病院との統合を図り、新病院を建設して、当該地域の急性期医療の充実を目指す方向性について基本的な部分で合意に達し、三者で本年6月2日に公表した。

**4 基本合意【令和4年6月2日】の内容**

(1) 新病院の設置者

三田市

(2) 新病院の経営形態

済生会兵庫県病院が指定管理者として運営

(3) 新病院の病床規模

400床～450床

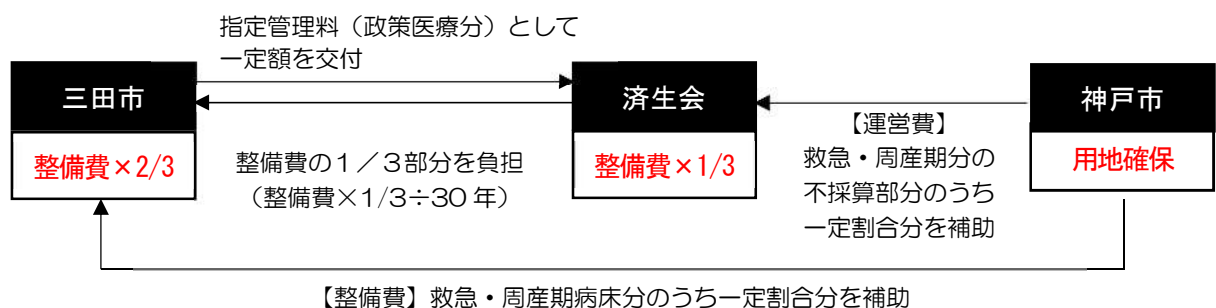
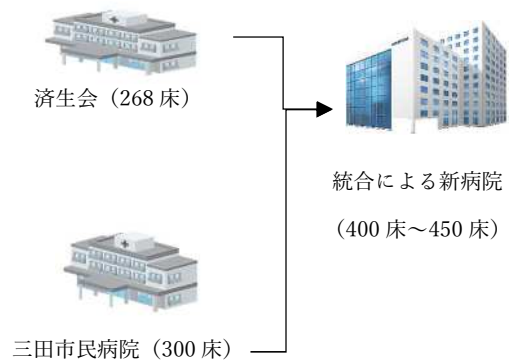
(4) 整備候補地

神戸市北区(両病院の中間地点付近)

(5) 新病院の事業費

① 土地取得費 神戸市が全額負担

② 整備費及び運営費の負担の考え方



(6) 今後の想定スケジュール

- 令和4年度 整備候補地を絞る・用地調査、統合に関する基本的事項の協議
- 令和5年度～ 用地取得、基本計画策定
- 令和7年度～ 設計・工事
- 令和10年度 統合新病院開院（※用地取得の進捗状況によっては開院時期が遅れる可能性がある）